

わが国の大学における惑星科学の将来

近年日本の主要な大学において、改組あるいは新設により惑星科学を謳う学科あるいは専攻が増え、現在7大学に地球惑星科学科あるいは大学院の地球惑星科学専攻が存在する。宇宙地球科学および地球惑星物理学の専攻を入れると9大学である。これを他の国と比べて見ると、例えば米国では Earth and Planetary Science の学科を有する大学は5つで、地球宇宙科学および隕石の学科を入れると日本と同じ9大学となる。ただし、惑星科学の研究者の数について言えば、米国にはNASAとか惑星に関わる他の研究機関もあり、また惑星科学を謳っていない大学にも惑星科学の研究者がかなり居るので、米国の方が日本より相当多いと思われる。しかし、それにしても惑星科学を教え研究することを謳った大学が日米で同じということは考える必要がある。ちなみに英国では地球惑星(宇宙)科学と名の付いた学科を有する大学は全くない。一方、惑星科学に関する研究活動や貢献度に関して言えば、日米の大学のみを比べた場合に大きな差があると言わざるを得ない。ただし、日本の主要大学の地球惑星科学科あるいは専攻は出来て間もないものが殆どで、又そこに所属する研究者の多くは惑星科学に関する研究歴も比較的浅いので、これまでの業績や貢献度が上記の米国の大学と比べて少ないのは理解出来る。問題は今後についてである。惑星科学を謳ったことは惑星科学の研究教育を今後しっかりやるという意気込みの表れであると思われる。しかし、私の知る限り、わが国の大学の惑星(宇宙)科学を冠した学科および専攻において惑星科学の研究教育の態勢は十分に出来ているとは言えず、又それを作り上げようとする努力は殆ど為されていないようである。このままでは近い将来、わが国の大学において惑星科学の優れた教育が行われ研究が大きく進展するようには思われぬ。もちろん惑星科学の研究は地球科学に比べて情報量が圧倒的に少なく、しかもそれらの情報は隕石を除いて大部分を米国が有しているので、日本では惑星科学の研究教育が行い難いことは理解出来る。しかし将来も惑星科学の研究教育が満足に出来ないなら、惑星科学の看板を掲げるべきでなかったと言われても仕方がないであろう。英国のある大学では環境科学の名称を付けるよう要請があった時に、まだ実績が少ないから付けるべきでないとしてそれを拒否した例もある。惑星科学についても恐らく同様であろうと推察される。内容を伴わずにただ学生を引き付ける為とか時流にのる為だけから惑星の名称を冠したとするならば、学生を失望させ、将来のわが国の惑星科学の発展にむしろマイナスになるであろう。そうならない為にも、今後日本の大学の惑星科学研究者が優れた研究を行い、若手研究者を育て、世界の惑星科学の研究教育の中心の一つとなるよう一層努力されることが切に望まれる。

久城 育夫 (岡山大学)